＊関 勝則「時代を映した横浜の歌」探訪。

《5》市民に愛される公園名の由来となった「港の見える丘」

1945（昭和20）年5月29日の空襲により、約8千人から1万人の死者が出たといわれています。8月に終戦を迎えたこの年の晩秋、終戦の安堵と不安が入り混じる中、川崎市にあった日本コロムビアでは、戦後を象徴する歌、並木路子の「リンゴの歌」が録音され、やがて焼け跡の街に「赤いリンゴに唇寄せて…」の明るい歌声が流れました。

その後は戦前の歌謡界を彩ったスター歌手たちが続々と復活を遂げ、岡晴夫「東京の花売り娘」、藤山一郎「夢淡き東京」、ディック・ミネ「夜霧のブルース」二葉あき子「夜のプラットホーム」などのヒット曲が新しい歌謡曲時代の幕を開きました。

一方、空襲で横浜新子安の工場が使用できなくなった日本ビクターが、1945年の暮れに行った全国歌手募集に3,000人が応募。選ばれた新人歌手、平野愛子が、東辰三が作詞作曲した「港が見える丘」でデビューしました。東京生まれの東辰三が神戸高商（現神戸大学）に学んだため、歌の舞台は神戸という説もありますが、多くの横浜市民は横浜の歌として受け止めました。ビクターが戦後の新たなスタートに向けて、発祥地である横浜の歌を歌わせたいという願望があったのではないかと考えられ、この曲の舞台は横浜であると推測されています。

「あなたと二人で来た丘は　港が見える丘　色褪せた桜　唯しのような桜、港を背景に別れた恋人との思い出が歌われたていますが、この頃、戦争を通してたくさんの別れを経験した人々の心に刺さる詞であったと思われます。切ない詞ではありますが、平野愛子の情感のこもった歌唱により大ヒット曲となりました。

「港が見える丘」にちなんで命名された「港の見える丘公園」は1962（昭和37）年に誕生しました。開港当時、イギリスとフランスの軍隊が駐留し、戦後は進駐軍によって接収されていた土地を解除の際に横浜市が公園用地とし入手しました。開園式の市長によるテープカットの際にこの曲が流れたようです。

平成11年には「港が見える丘」の歌碑が建てられ、由来によると「港が見える丘」が市民に愛されていることもありこの公園名になったと記されています。

ちなみに、平野愛子は1952（昭和27）年の第２回NHK紅白歌合戦に初出場しましたが、「君待てども」を歌ったため、意外にも「港が見える丘」を紅白で歌うことはありませんでした。

＊オモテ面より続く、「市会日記」は紙面の都合、休載させていただきます。

目指す方向性

磯子区青少年育成協議会は、古くから大切にしてきた地域とのつながりを再認識・再構築することで、青少年がより多くの人とコミュニケーションをとることやたくさんのことを体験できる地域づくりなどが必要と結論付け、基本目標や行動計画を定めました。

基本目標：冒頭でも紹介しましたが、「より一層学校・家庭・地域が一体となって子供の成長を見守り、育てる」ことを目標としています。

行動計画：家庭では、何気ないことでも毎日会話をし、子供の考えを最後まで聞く。そして子供の個性を尊重し、無理に保護者や世間の考えに合わせようとしない等。学校は、認め合える人間関係をつくるため、互いの意見や考えを言い合える環境（学級）づくりに努める。友達や仲間と一つのことをやり遂げることはとても大切であり、そのための先生のサポートは必要等。地域ができることとして、大人が率先して社会のルールを守る。大人から積極的に挨拶をして、子供との関係を築く。地域行事や活動を子供向けにＰＲして、子供の積極的な参加を促す等。

磯子区青少年育成協議会がまとめた指針の内容には、私も共感するところが多くあります。レポート１２９号（29年2月）で、北九州の少年サポートセンターで12年間にわたり青少年に寄り添う育成指導官の活動を紹介しました。「問題を起こす子供・親」ではなく「問題を抱える子供・親」、「困った子供・親」ではなく「困っている子供・親」と捉え、関係者一人ひとりが熱意をもって向き合い行動することの重要性を伺いました。

私はボーイスカウトや海洋少年団の活動に参加したり、スポーツ大会を主催して子供たちと積極的に触れ合ってきました。大人が子供たちと関わることが大切です。これからもできることから行動してまいります。

様々な電話相談窓口を下記に掲載いたしました。ひとりで抱え込まずにご相談ください。

- かながわ子ども・若者総合相談センター　242-8201　火～日曜：９～12時／13～16時
- よこはま子ども虐待ホットライン　0120-805-240　365日：24時間
- ユーステレホンコーナー　0120-45-7867　平日：8時30分～17時15分
- いじめ１１０番　0120-671-388　365日：24時間　対象：小・中学生
- 学校生活あんしんダイヤル　663-1370　火～金曜：9～12時／13～16時　対象：小・中学生
- にんしんＳＯＳヨコハマ　662-5524　365日：10～22時